

科学研究費助成事業（基盤研究（S））中間評価

課題番号	18H05294	研究期間	平成30(2018)年度 ～令和4(2022)年度
研究課題名	過去72万年間の気候変動情報を含むアイスコアの物理と層位および「最古の氷」の研究	研究代表者 (所属・職) (令和2年3月現在)	藤田 秀二 (国立極地研究所・研究教育系・教授)

【令和2(2020)年度 中間評価結果】

評価		評価基準
	A+	想定を超える研究の進展があり、期待以上の成果が見込まれる
	A	順調に研究が進展しており、期待どおりの成果が見込まれる
○	A-	概ね順調に研究が進展しており、一定の成果が見込まれるが、一部に遅れ等が認められるため、今後努力が必要である
	B	研究が遅れており、今後一層の努力が必要である
	C	研究が遅れ、研究成果が見込まれないため、研究経費の減額又は研究の中止が適当である
<p>(意見等)</p> <p>本研究は、南極で採取した72万年の気象変動情報を記録したアイスコアを高分解能で解読することで、古気象シグナルとしての情報価値を創出することに加えて、今後掘削される150万年規模の情報の質を予測することを目的としている。</p> <p>計画していた測定機器の開発がほぼ完了し、ミリ波誘導率テンソル、結晶C軸方位の直接測定など、詳細な連続測定に成功していることは評価できる。一方で、連続融解解析システム(CFA)による化学層位計測は、ポスドクの採用が遅れたこともあり進展が遅れており、当初の目的である統合解析の内容を見直す必要が出てくる可能性もある。また、本研究で得られた成果の公表が遅れている点も懸念される。本研究は、7項目の研究を統合することが必要な計画となっており、「最古の氷」の発見に至るかどうかが予断を許さない状況であり、目標達成に向けた今後の努力を期待する。</p>		